

# 健康

# ヨイコ

子供が病気で、仕事が休めない。母親の就労と子育て支援、子供の権利を守る関西初の病児保育所「枚方病児保育室」は昭和44年、小児科医の保坂智子さんが、働く母親の多かった香里団地（大阪府枚方市）で開設。その後、平成7年には国の「乳幼児健康支援一時預かり事業」として制度化された。現役医師として活躍する保坂さんに病児保育について聞いた。

全国病児保育協議会名誉会長  
保坂小児クリニック理事長

## 保坂 智子さん

病児保育室とは？

保坂 平成7年から厚生労働省が「乳幼児健康支援一時預かり事業」として病児、病後児保育を定めました。子供が病気で、保護者が仕事の都合で休めないときに子育てと就労の両立を支援するものです。対象は、保育所に通う子供が病気の回復期（病後児）や病気がかり（病児）、集団保育ができないときです。ただ、入室には保護者が居住地の市町村に申請し、認められる必要があります。

先駆者ですね

保坂 昭和33年に、関西で初めて郊外型の大規

## key person



## 病児保育の必要性に理解を

模範住宅団地・香里団地が街開き。住民の多くが夫婦共働きです。保育所

に通う子供の父母の会との会合で、女性の仕事と子育て支援などの話題がきっかけとなり、国や自治体に働きかけました。それで44年に保坂小児ク

リニックに関西初の枚方病児保育室が開設できました。住民の思いと私の働く女性を支援する気持ち重なり、病児保育室が誕生したのです。平成3年には、全国14の病児保育施設が参加して、全国病児保育協議会（稲見誠・現会長）が設立されました。私は初代会長に就任

できればと思っています。

課題もある

保坂 40年間の利用率を分析しますと、最低でも人口10万人に1施設は必要と考えています。現状は同協議会によりまずと、全国で約490施設で、約3倍の施設が必要です。国や自治体、病院、診療所などが、今まで以上に病児保育の必要性を理解してほしいと思います。

最後に

子供が病気になれば、大抵親が看病します。保坂 子は親の背中を見て育ちます。父母が一生懸命、仕事をしている姿を子供に見せることが大切です。病気の子供や回復期の子供がいれば、できるだけ仕事を休み、看護してほしい。しかし、どうしても休めないときには「病児・病後児保育室でみる」ことを基本に

保坂 病院に併設されている施設を除くと、ほとんどは入室定員が10人以下です。今後、少子化になりますが、病児保育の重要性を考えると、施設で働く医師や看護師、保育士などスタッフの増員も必要。また、地域の開業医や病院との連携も大切です。国に「乳幼児健康支援一時預かり事業」の充実を図っていたきたいと思っています。